

# 埼臨技だより

発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会

〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7 TEL 048 (824) 4077 FAX 048 (824) 4095

URL:<http://www.sairingi.com/> 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第58回 埼玉県公衆衛生大会 開催 当会推薦の6名が埼玉県公衆衛生事業功労者として表彰される

平成26年11月15日(土)さいたま共済会館において、第58回埼玉県公衆衛生大会が開催され、当会が技師会活動を通じて県内の公衆衛生事業において顕著な功績を挙げられた方として推薦した、石田 圭一氏、神山 清志氏、齊藤 雅一氏、篠塚 洋明氏、根岸 永和氏、藤野 真治氏(五十音順)の6名が、埼玉県公衆衛生事業功労者の表彰を受けました。

当日は、公務出張中の上田埼玉県知事に代わり塩谷副知事、埼玉県議会議長峰議長、埼玉県議会福祉保健医療委員会田村委員長他4名、当会津田会長ならびに埼玉県医師会等の医療・保健関係団体の長が出席の中、公衆衛生事業功労者(受賞者数:個人97名、団体2団体)、国民健康保険関係功績者(受賞者数:個人38名)の表彰式が執り行われました。

塩谷副知事からは「埼玉県は、高齢化が日本一急速に進んでおり、県として健康長寿埼玉の実現に向けた基本的な方針『健康埼玉21』により対応を行っている。今回、長年の功績により受賞された方々においては、今後も県内の公衆衛生・保健関係事業に協力をお願いしたい。」との挨拶があり、受賞者の謝辞、記念撮影が行われ盛会の内に終了しました。最後に受賞の皆様にお祝い申し上げますとともに、今後のご活躍を祈念いたします。(文責:島村益広)



(写真左から、齊藤 雅一氏、篠塚 洋明氏、石田 圭一氏、塩谷副知事、津田会長、神山 清志氏、根岸 永和氏、藤野 真治氏)

 **受賞者喜びの一言** 

自治医科大学附属さいたま医療センター 藤野 真治

この度、11月15日に浦和市のさいたま共済会館で行われました、第58回埼玉県公衆衛生大会において、公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。この名誉ある受賞に際しまして、ご推薦を頂きました埼玉県臨床検査技師会の津田会長をはじめ、副会長や理事の皆様へ深くお礼を申し上げます。今回の受賞は技師会研究班活動や埼玉県医師会精度管理事業、また埼玉県精度管理専門委員としての活動を評価していただいたものと思います。

この賞を励みに、微力ではありますが今後も技師会活動や精度管理事業などに努力していきたいと思っております。本当に有難うございました。

埼玉医科大学病院 齊藤 雅一

本功労賞は、県民の生命と健康を守る地域医療の提供、地域のボランティアによる食生活改善講座の実施、環境衛生向上のための狂犬病予防活動など、各分野において埼玉県の公衆衛生を長年支えていただいた方々の功績を讃え、表彰するものであります。去る平成26年11月15日(土)、さいたま共済会館において、埼玉県副知事をはじめ、来賓各位ご出席の上、盛大な表彰式を挙げていただき、表彰状を賜りました。まことに身にあまる光栄でございます。厚くお礼申し上げます。

私は、血清研究班班員として微力ながら、研修会の開催、精度管理事業の解析等を担当させていただきました。また、本年6月には軽井沢セミナーの担当県としてその実務全般を任せさせていただきました。このような研究班活動を理事会の皆様にお認めいただき、更にご推薦いただいたことにより受賞に至ったものと存じます。厚くお礼申し上げます。このような晴れがましい栄誉を得ましたことは、ひとえに、歴代の研究班班長をはじめ、班員の方々のご指導、励ましの賜物と心から感謝しております。この上は、埼玉県臨床検査技師会の発展のため、決意を新たに会務に尽くす所存でございます。皆様、今後とも一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。簡単ではございますが、感謝の言葉に代える次第でございます。

北埼玉医師会立メディカルセンター 篠塚 洋明

この度、第58回埼玉県公衆衛生大会にて埼玉県公衆衛生事業功労賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。ご推薦いただきました津田会長をはじめ、理事の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。今回の受賞にあたり、精度管理実務委員としてはじめて技師会活動に参加した当時の一般検査研究班の方々や、公衆衛生検査研究班での班活動を指導して下さった諸先輩、班員の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

私の職場は、地域医療の一端を担っていると自負しておりますが、技師が6名の小さな施設です。その中で技師会活動に参加し続けることが出来たのは、職場での理解があった賜物であると感謝しております。

今後とも微力ながら地域医療並びに技師会活動に尽力したいと考えております。

誠に、ありがとうございました。

## 浦和医師会メディカルセンター 石田 圭一

このたびの受賞に際しまして、津田会長をはじめ、技師会役員の皆様、関係各位のご尽力とご厚情にあらためてお礼申し上げます。

今回の受賞は決して私一人の力でもらえるものではなく、当時まだ20代だった私をころよく血清研究班に送り出してくれた職場の先輩や同僚、議論を交わした研究班の仲間、そしてたくさんの方を教えてくださいました技師会の先輩方、このようなすばらしいひとたちがいたからこそ、今回の受賞につながったものと感じています。

私は1989年（平成元年）から14年間、血清研究班の活動に携わりましたが、この間、研究班班長、臨床検査精度管理委員として多くのことを学ばせていただきました。はじめは自分の研鑽の場として入った研究班でしたが、気が付くと、自分が指導する立場に立っていたことをあらためて知り、その責任の重さを強く感じました。班長としての6年間は自分にとって、本当に充実した年であったと同時に、その運営の難しさも経験しました。その時、お世話になった方たちも多くが退官されてしまいましたが、この賞を励みとして、技師会の歴史を作られた方たちの思いを今後につなげていけるよう、微力ながら技師会の発展に尽くしてまいりたいと存じます。今後も役員の皆様をはじめ、会員の皆様のなご指導とご鞭撻をお願いいたします。

## さいたま赤十字病院 根岸 永和

このたび、第58回埼玉県公衆衛生大会におきまして埼玉公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。このような栄誉ある受賞に際しまして、ご推薦を頂きました津田会長をはじめ理事の皆様へ深謝いたします。

今回の受賞は血液研究班、埼玉医師会精度管理委員の活動を評価していただいたものだと思います。活動を支えてくださいましたさいたま赤十字病院の諸先輩方ならびに血液研究班の皆様へ感謝申し上げます。

今後もこの受賞を励みに微力ながら埼玉県臨床検査技師会の発展のために努力をしてまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。

## 浦和医師会メディカルセンター 神山 清志

このたび、11月15日（土）に開催された第58回埼玉県公衆衛生大会の席上にて公衆衛生事業功労賞を受賞させていただきました。栄えある賞の候補者としてご推挙を賜りましたこと、津田聡一郎会長をはじめとする埼臨技執行部の皆様へ厚くお礼申し上げます。今回の受賞は、研究班員、精度管理をはじめとする各種委員、理事を務めたことに対する評価と考えますが、これらの活動を今まで継続できた背景には、当施設の斉藤和徳 元技師長をはじめとする職場の皆様、浦和医師会執行部の先生方、小崎繁昭 元会長をはじめとする技師会の諸先輩方の暖かいお力添えがあったからこそと思います。この場をお借りいたし厚く御礼申し上げます。さて、当会は本年1月より「公益社団法人」として新たな出発をいたしました。今後も、名実ともに社会からの更なる期待に添える技師会になるよう、微力ではございますが努力いたす所存です。このたびは誠にありがとうございました。

## 全国「検査と健康展」に参加して

先月号に掲載した全国「検査と健康展」に参加された若手技師3名の方に感想をご執筆していただきました。

### 厚生連熊谷総合病院 原口 里佳

10月25日、26日に深谷ビッグタートルにて、日臨技、埼臨技の両主催による全国「検査と健康展」が、深谷市福祉健康まつりと同時開催されました。私は10月25日に「検査と健康展」で、血圧脈波やアンケート調査などのお手伝いをしました。会場では多くのコーナーが設けられ、来場者で賑わっていました。



来場者にお話を伺ったり、アンケートを見たりすると、臨床検査技師を初めて知ったという方や、名前だけは知っていたがどのような仕事をしているのか分からなかったという方が多いことに気がつきました。今回のイベントでは、臨床検査技師が検査説明、検査、結果についての説明を行うことで来場者の方とも多くコミュニケーションが取れ、臨床検査技師という職業を知っていただく良い機会になったと思います。今後もこのようなイベントに参加して、臨床検査技師の存在をアピールしていきたいです。

### 厚生連熊谷総合病院 長谷川ゆみ

先日行われた深谷市福祉健康まつりに参加し、同時開催された技師会主催の全国「検査と健康展」のお手伝いをしました。健康まつりへの参加は20年以上前から行われています。「検査と健康展」では、簡易血糖測定や血管年齢測定などが行われ、私は主に血管年齢測定を担当しました。指先だけで測定でき、数分で結果が出るため測定の順番待ちで行列ができるほどでした。実年齢と測定した血管年齢が同等であれば喜んだり、それから離れてしまうとショックを受けている方もあったりと、検査内容やその結果についての説明をどのように伝えるか、とても勉強になりました。血糖測定も指先だけで同様に短時間で測定でき、「時間がかからないなら」と検査を受けに来た方もいました。このような催しは健康維持に対する興味を持ってもらうために大きな役割を持っていると思いました。アンケート調査では、「臨床検査技師」についてどのような意見を持っているのかを聞く事ができました。今回、「検査と健康展」に初めて参加し、とても貴重な体験ができたと思います。



### 深谷赤十字病院 水堀 彩香

先日、深谷市で行われた深谷市福祉健康まつりに、日臨技・埼臨技主催の全国「検査と健康展」のスタッフとして参加させていただきました。内容は、地域市民を対象に簡易血糖測定器による血糖測定、血管年齢測定、エコー体験、糖尿病クイズ、検査相談等が行われました。老若男女問わず、たくさんの方たちに来展していただき、地域の方たちには楽しみながら、臨床検査や健康づくりについて理解を深めていただけたのではないかと思います。



参加者は、普段経験することの少ない血糖の測定や血管年齢の測定等をとっても興味深そうにしながら、実際に目の前で見て、体験していました。自分の検査値の結果が出ると、真剣に検査値の説明を受けており、また、あまり思わしくない検査値であると、どのように生活習慣を改善すべきかななどの質問をとっても熱心にされている様子でした。

今回のこの活動は、普段意識することのない自分の健康について考え、今までの生活習慣を見直し、健康増進に対する意識を高めるためのよい機会であったのではないかと感じました。また、それだけでなく、実際に地域の方たちと触れ合ったり、参加者に臨床検査技師や検査の項目について



のクイズや常設展示を見ていただくことによって、臨床検査技師という職業について知ってもらい、理解していただくことができたのではないかと思います。

地域の方たちが心身ともに健康で元気に過ごしていただくことが医療従事者である私たちの願いであり、疾病の早期発見、早期予防が大切です。そのためには、一人ひとりの健康への深い理解、健康を意識した生活習慣が不可欠であり、地域の方たちにそれらを意識していただくことが重要です。今回の活動は、そのような地域の健康保健にとっても貢献できるものであり、これからも積極的にかかわっていく必要があると思いました。



## 第43回 埼玉県医学検査学会だより

第43回埼玉県医学検査学会も近づいてまいりました。

会員、賛助会員や関係各位の協力と助言をいただき、そして実行委員の頑張りで何とか形ができたと思います。後は12月21日(日)多くの会員の参加を待つばかりです。



今学会は「つ・な・が・る」～職種の壁を越えて～をテーマに企画・運営の準備をしてきました。Skill up project 1は他職種の病院看護師と薬剤師に参加いただき、現在のチーム医療に満足？これからのチーム医療に望むこと、2は静脈採血に必要な上肢末梢神経の解剖学知識～採血をするために知るべきこと～、3は検査室におけるピットホール症例～誰もが知りたいピットホール～の3つを企画をしていますので乞う御期待下さい！ 特別講演は大村健二先生より

「栄養管理と検査のつながり」、市民公開講演は和合治久先生による「未病改善に役立つ音楽療法」と埼玉県立大宮高等学校による「吹奏楽演奏」と沢山のプログラムを用意しております。

今学会は162演題と多くの会員より演題エントリーいただきまして、大変感謝しております。学会当日はタイトスケジュールですが情報の宝庫となりますので、ぜひ皆様お声をかけあい一人でも多くの会員に参加していただきたいと思います。

学会開催にあたり会員の皆様、賛助会員の皆様には多大なるご支援ご協力をいただきまして実行委員会を代表しまして心より御礼申し上げます。

(学会長：袴田 博文)

### 【運営部】

いよいよ第43回埼玉県医学検査学会が今月21日(日)に迫って参りました。抄録も皆様のお手元に届き「どれを聞こうかな？」なんて考えていらっしゃる頃だと思います。160を超える演題…分厚くて全部読むのもなかなか大変だよ、という声が聞こえてきそうです。

実行委員会は抄録が出来上がってホッとしているのも束の間、当日運営に向けて具体的な準備にせわ





のみが陽性となった。このことからBCGツベルクリン皮膚反応は血清という液体レベルではなく、脾臓細胞という細胞レベルで伝達されたことを説明された。

またヘルパーT細胞には細胞性免疫に関わるTh1細胞と、液性免疫に関わるTh2細胞があり、サイトカインで相互の分化バランスが制御されている。そのためTh2細胞が優位の場合、B細胞からIgE産生が促進されI型アレルギーを起こしやすいとのことであった。

これまで自然免疫は特異性の無い原始的な機構と考えられていたが、近年、トル様受容体 (Toll like receptor : TLR) の発見により免疫システムの概念に変化が起きたという。TLR発見以降、T細胞の役目とされていた病原体認識は、TLRによる全身での認識 (自然免疫) からすでに始まっていることが判明した。

日常の検査業務では測定機器内での抗原抗体反応に目が行きがちだが、まずは自身の生体内での反応を理解することで、より興味深く免疫検査に取り組むきっかけになったと思う。

(文責：相坂由里子)

## テーマ 輸血前検査における異常反応への対応 (中級編)

主催 輸血検査研究班

実施日時：平成26年10月24日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科－20点

講師：渡邊一儀 (獨協医科大学越谷病院)

神戸考裕 (関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所)

参加人数：会員78名 賛助会員2名

出席した研究班班員：渡邊一儀 武関雄二 山田攻 佐藤祥子 今井厚子 長谷川卓也

神戸考裕 斉藤翔子 黒田果織 水越敬子

研修内容・感想など

今回の研修会では、「輸血前検査における異常反応への対応(中級編)」と題し、受講者をグループ分けして症例を3例提示し、それぞれグループで討論(約20分)して発表するディスカッション形式で行った。

症例は①冷式抗体②検出感度以下であった不規則抗体の例③自己抗体の例であった。症例の提示は渡邊技師、症例の解説は神戸技師が行なった。各症例に対してある病院の対応例として検査結果の解釈、必要な追加検査、臨床への報告を提示し、各グループにおいて施設対応例を検証し、自分の施設ならばどうするのかを討論した。

症例の内容はやや難易度が高かったものの、どの施設にも平等に出会う可能性があるため非常に活発な意見交換がされていた。輸血検査は異常反応が出た場合に解釈を肯定するための検査と否定するための検査を使い分ける必要がある。

今回の研修会は受講者参加型であったが、輸血検査を行なっていく上で引出しとして持っておく(知識として押さえておく)ことが分かり、中級者にふさわしい内容であったと思われる。

(文責：水越敬子)

## テーマ 新しい衛生研究所で学ぶ 感染症に関する最近の話題と菌株供覧

1. 腸管系感染症について

2. 呼吸器系感染症について

3. 寄生虫症とリケッチア感染症について

4. 菌株供覧

主催 微生物検査研究班・公衆衛生検査研究班 合同研修

共催 埼玉県衛生研究所

実施日時：平成26年10月25日 12時50分～15時30分

会場：埼玉県衛生研究所 点数：専門教科－20点

講師：倉園貴至・嶋田直美・山本徳栄 (埼玉県衛生研究所)

古畑健司 (株式会社 ビー・エム・エル総合研究所)

共 催：埼玉県衛生研究所

参加人数：会員38名

出席した研究班班員

微生物検査研究班：永野栄子 古畑健司 牧俊一 酒井利育 荻野毅史 佐藤香里 砂押克彦

公衆衛生検査研究班：菊地孝司 長崎広美 阿保一茂 富井貴之 穴原賢治

研修内容・感想など

本年4月に移転した新しい埼玉県衛生研究所で初めての研修会を開催した。交通アクセスが良くないため、例年より10分繰り上げ、終了時間厳守の進行であった。

今年度は、3つのトピックスの講演と菌株供覧の実習を行った。

1)腸管系感染症では、倉園氏が、2013年の検出状況について説明された。なかでも、チフスは、従来の海外感染ではなく、国内感染事例が増加していることを報告され、感染源や原因を含め、関心が高かった。

2)呼吸器感染症では、嶋田氏が結核、溶レン菌感染症、レジオネラ、ジフテリア、百日咳、VRE感染症について2014年の1月から9月末までの最新の検出状況を解説された。

とくにジフテリア、VRE感染症については、その届出基準の詳細や解析例についての成績を示された。溶レン菌については、今年は例年よりも定点あたりの報告数が多いこと、咽頭炎由来のT型別では、B3264が増加傾向にあることを説明された。

3)寄生虫・リケッチア症分野では、食品媒介によるトキソカラ症とつつが虫および日本紅斑熱について山本氏に講演していただいた。トキソカラ症では、イヌ回虫、ネコ回虫の解説、ヒトへの感染様式や臨床例の詳細などについての解説があった。

4)菌株供覧は、古畑氏が中心になって指導・解説を行った。臨床で検出される細菌について、直接検体を塗布した培地と菌株の純培養平板とが提供され、培地でのコロニー形状、確認培地での生化学的性状、培養検体からの見分け方などが示された。また、今回は特に薬剤耐性菌についての解説があり、メタローβ-ラクタマーゼ産生菌やカルバペネム耐性腸内細菌について、その判定の方法など、実際の培地をもとに解説された。

衛研側からは、例年どおりコレラ、赤痢、チフス、腸管出血性大腸菌、レジオネラなどの供覧、寄生虫標本の観察などがあり、受講者は熱心に観察を行っていた。なかでもレジオネラのコロニー観察(斜光法)は、医療機関ではなかなか目にしない検査法であり、関心を集めていた。

今年は、衛生研究所移転に伴い、吉見町での新しい庁舎での初めての開催になった。この研修は、単に通常見る機会のない病原体を実際に観察するというだけでなく、参加機関(医療機関、検査機関)と衛生研究所、臨床検査技師会が相互に直接話をし、理解を深めること、「顔の見える関係」づくりを目指してきた。これは、感染症発生動向調査における病原体収集の成果や、検査技師会・各機関・衛生研究所が密接に連携しているケースとして、全国でも高い評価を得ている。他県でも同様な研修を企画していると聞いている。病原体の管理面や実習場所など、さまざまな問題があるが、新たな研修方法も考えながら、継続していくことが重要と考えている。

(文責：砂押克彦)

## テーマ 初心者・初級者血液形態セミナー 今年もやります。血液検査の定番研修会

主催 血液検査研究班

実施日時：平成26年10月26日 9時30分～16時00分

会 場：大東文化大学東松山キャンパス 9号館 点数：専門教科-20点

講 師：血液研究班員

参加人数：会員39名 学生4名

出席した研究班班員：星孝夫 田中正 網野育雄 圓田和人 原誠則 橋口恵子 岡安幸子  
軍司雅代



## 研修内容・感想など

今年も昨年と同様に受講者のレベルごとに班わけを行うための簡易テストから始まった。初心者コースでは、顆粒球系・リンパ球系や、赤芽球、異型リンパ球、巨大血小板等、鑑別困難な細胞を、初級者コースには、あと一息で鑑別出来そうな細胞まで出題された。その後は田中技師より末梢血の血液細胞の基本的な見方についての講義があり、初心者には細胞の見方の初歩が理解でき、初級者には主観が入りがちな細胞の再確認になったことと思う。

午後は、初心者・初級者に分かれて鏡検を行った。ディスカッション顕微鏡を用いて基本的な細胞形態の見方を確認する初心者コースでは、顆粒球系幼若細胞や反応性異型リンパ球を観察し、最後には正常細胞に戻って、特にリンパ球・単球を再確認した。初級者コースは、CMLやCLL、ALL、等の白血病の症例から、EBウイルス感染により反応性の異型リンパ球の出現する伝染性単核球症の症例まで、個々の細胞形態や標本全体からどういう疾患に結び付いていくかのプロセスを学んでもらった。

下記に、毎年恒例となっているじゃんけん大会で決まった方に実習の感想を書いていただいたものを紹介する。  
(文責：橋口恵子)

今回はじめてこの講習会に参加し、他院の検査技師たちとグループでディスカッションしながら鏡検したり症例検討したり参考になることがたくさんありました。自分は血液班になり1年経つのですが、異常細胞や幼若細胞の特徴を解りやすく教えていただき、これからのルーチンや後輩の指導に生かせるように頑張ろうと思います。今回はこのような講習会を開いていただきありがとうございます。  
(朝霞台中央総合病院：黒田啓太)

先日行われた初心者・初級者形態セミナーに参加させていただきありがとうございました。私は血液像の勉強を始めたばかりでまだルーチン業務は行っておらず、カウントなどの練習中です。今回の講義や実際に顕微鏡を使用した実習はとてもわかりやすく、多くのことを学ぶことができました。特に実際に顕微鏡を使用した実習では、症例の標本を観察しながらその症例について解説していただいたのでとても理解しやすかったです。基本形態や各症例の特徴など今回学んだことを練習のときからしっかり頭に入れておき、1日でも早くルーチン業務に携わることができるように努力していこうと思います。

(株式会社 アムル 上尾中央臨床検査研究所：南雲眞梨子)

## テーマ 平成26年度・寄生虫類に関する検査技術と鏡検のポイント — 多種類の虫卵、原虫類を観察してみましょう！ —

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：平成26年11月9日 13時00分～16時00分

会場：東武医学技術専門学校 講義室及び実習室 点数：専門教科—20点

講師：山本徳栄（埼玉県衛生研究所）

参加人数：会員29名

出席した研究班班員：菊地孝司 富井貴之 長崎広美 榊原外江 立塚梓 鈴木勤 阿保一茂  
(実務委員として)

## 研修内容・感想など

山本徳栄氏を講師にお招きし、寄生虫に関する実習を行った。前半の講義は主に寄生虫に関する検査法（MGL法、シヨ糖遠心浮遊法、コーン染色等）についての内容であった。教科書等には掲載されていないような実際に行う際のポイント、注意点なども詳しく解説された。

後半の実習では、はじめに山本氏が数名の参加者と一緒に検査法のデモンストレーションを行い、その後寄生虫卵や原虫等40種類の標本がセットされた顕微鏡を順番に鏡検する形で実習を行った。

日常では見る事のできない標本も多く、参加者は講師や実務委員に質問をしたりしながら、熱心に観察していた。寄生虫卵や原虫を実際に鏡検できる機会は少なく、今回、山本氏が所有する貴重な標本を実際に見ることができ、とても有意義な研修会であった。

(文責：阿保一茂)

## テーマ 過ヨウ素酸シッフ反応とアルシアン青染色 ～染色の手技が与える影響～

主催 病理検査研究班

実施日時：平成26年11月14日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 13集会室 点数：専門教科－20点

講演 1：埼玉県：粘液染色コンペの結果

講 師：沼上秀博（埼玉県立循環器・呼吸器病センター）

講演 2：アルシアン青染色

講 師：森田 繁（さいたま市立病院）

講演 3：過ヨウ素酸シッフ反応

講 師：岡村卓哉（獨協医科大学越谷病院）

司 会：高橋俊介（PCLジャパン病理細胞診センター）

参加人数：会員54名 賛助会員4名

出席した研究班班員：渡邊俊宏 岡村卓哉 森田繁 荻真里子 金泉恵美子 三鍋慎也  
細沼佑介 関口久男 高橋俊介 沼上秀博

### 研修内容・感想など

一昨年からはじめた種類別染色法の第2弾として、今年度は「多糖類の染色」をテーマに、PAS反応とアルシアンブルー染色を取り上げた。

講演1では県内の15施設の協力を得て、染色コンペとアンケート調査の結果を報告した。各施設での手技や染色結果には多少の違いがあることが分かったが、診断に支障を及ぼすような大きな差はみられなかった。講演2および3では、染色法の基本的な原理等の解説後、人為的に条件を変更し、これらが染色結果に及ぼす影響についての説明があり、2つの染色法ともいくつかの注意すべきポイントの“おさえどころ”を講演していただいた。

この2種類の染色は操作法も簡単で得られる情報も豊富なことから、病理分野では利用価値および依頼頻度の高い染色法である。今回の研修会では操作法を含めた施設間差を確認できたほか、同時に各染色法の基本的な部分を勉強することができた。これらを参考に、各施設でよりよい標本作製（できれば施設間差の縮小）に努めていただければと思う。

(文責：沼上秀博)



お知らせ

## 埼臨技事務所の年末年始休暇について

平成26年12月27日(土)～平成27年1月5日(月)

上記期間、事務所はお休みになります。

平成26年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第9回 理事会議事録

日 時：平成26年11月6日(木) 19時00分より

場 所：JCHO埼玉メディカルセンター  
さいたま市浦和区北浦和4-9-3

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題  
Ⅴ. その他

出 席：(理事)津田 神山 島村 岡田 小山  
奈良 猪浦 長岡 伊藤 松岡  
小島 濱本 藤井 長澤 鳥山  
武関 野瀬 和彦 神嶋  
(監事)遠藤 細谷

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は18名で、現在数20名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、津田聡一郎会長が務めることとなった。

#### Ⅰ. 行動報告(平成26年10月9日～平成26年11月5日)

10月9日(木)平成26年度公益社団法人第8回理事会：

津田、島村、岡田、小山、奈良、猪浦、長岡、伊藤、松岡、小島、濱本、藤井、長澤、鳥山、武関、野瀬、神嶋、遠藤、細谷

10月11日(土)60周年記念誌編集作業：  
奈良、猪浦、長岡、伊藤

10月17日(金)60周年記念誌編集作業：  
岡田、奈良、猪浦、長岡、伊藤

10月21日(火)第43回埼玉県医学検査学会第14回  
実行委員会：岡田、小島、長岡

10月23日(木)60周年記念誌資料借用  
(埼臨技事務所)：長岡

10月24日(金)全国「検査と健康展(埼玉会場)」  
事前準備：津田、濱本

10月25日(土)全国「検査と健康展(埼玉会場)」：  
津田、濱本、藤井、長澤、野瀬、遠藤

10月26日(日)全国「検査と健康展(埼玉会場)」：  
津田、島村、濱本、藤井、長澤、野瀬、伊藤、小島、神嶋、遠藤

10月28日(火)第43回埼玉県医学検査学会抄録確  
認作業：長岡

10月29日(水)熊谷保健所診療所廃止届提出：  
濱本

#### Ⅱ. 報告事項

##### 1 事務局

1) 第25回埼玉県大腸がん検診セミナー後援の依頼があった。

2) 一般検査TOCHIGIセミナー共催の依頼があった。

##### 2 総務部

1) 「埼臨技だより」第426号、11月15日発行予定

2) 10月22日(水)埼臨技ロゴマーク商標登録査定決定した。

##### 3 事業部

1) 10月25日(土)、26日(日)に全国「検査と健康展(埼玉会場)」を実施した。

2) 熊谷保健所に診療所開設・廃止届を10月29日(水)に提出した。

3) 平成27年賀詞交換会招待者について

##### 4 学術部

1) 第64回日本医学検査学会座長の推薦依頼があった。

2) 編集委員会を開催し、会誌Vol.3掲載予定の論文に対し、査読委員が「条件付アクセプト」と判断し、筆者へ連絡。最終原稿を再査読中。

3) 臨床化学研究班より領収書の発行依頼があり、承諾した。

4) 平成26年度日臨技病理細胞部門支部研修会、第23回日臨技関甲信支部・首都圏支部病理細胞診研修会、「病理・細胞診検査の医療安全」の案内をHP掲載、だより11月号へ挟み込みを行った。

5) 会誌Vol.3発行予定。

##### 5 精度保証部

##### 6 会計部

1) 地域ニューリーダー育成講習会費として¥20,000を日臨技に支払った。

2) 極東製薬工業より擬似便使用料¥291,036の入金があった。

3) 埼臨技だより第425号印刷代として¥115,128を石井印刷に支払う予定。

4) 埼臨技ロゴマーク登録印紙代¥21,900、期限管理サービス¥10,800を特許業務法人虎ノ門知的財産事務所に支払った。

##### 7 精度管理委員会

##### 8 一都八県会長会議

##### 9 日臨技関甲信支部

##### 10 第43回埼玉県医学検査学会

1) 10月21日(火)、第14回実行委員会を開催した。

#### Ⅲ. 承認事項

##### 1 事務局

1) 会員動向(会費納入済)(平成26年度分)  
平成26年10月31日現在

会員数 2,554名

(新入会員 197名[平成25年度会員数2,306名])

賛助会員 74社[平成25年度 72社](10月31日現在)

2) 公益社団法人埼玉県臨床工学技士会より記念式典出席の案内があった。

##### 2 総務部

1) 第44回埼玉県医学検査学会実行委員について。

3 事業部

1) 検査と健康展決算について

4 学術部

1) 研究班使用の印刷用領収書について

2) 平成26年度地区別研修会について

土曜日、15時～、3時間開催を希望するが、日程は再検討する。

5 精度保証部

6 会計部

1) 事務員の冬季賞与の支給について。

IV. 議題

特になし

V. その他

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

# 求人案内

○医療法人社団白報会

メディカルクリニック ドクターランド

採用条件：臨時職員

連絡先：03-5814-8989

医療法人白報会グループ 本部 北村

○埼玉県衛生研究所

採用条件：育休代替職員

連絡先：0493-59-9416 水・食品担当 石井里枝

0493-59-9369 ウイルス担当 篠原美千代

○獨協医科大学越谷病院

採用条件：正職員

連絡先：048-965-4954 検査部 柴崎

(業務について)

048-965-9138 職員課 翠田

(事務的なこと)

○草加市立病院

採用条件：正職員

連絡先：048-946-2200 経営管理課 庶務係

○株式会社 アムル

採用条件：正職員

連絡先：048-997-7721 総務課 村瀬洋伸

○独立行政法人 地域医療機能推進機構

さいたま北部医療センター

採用条件：正職員

連絡先：048-663-1671 内線203

総務・企画課 二宮

○医療法人三慶会 指扇病院

採用条件：正職員 臨時職員

連絡先：048-623-1103 総務課 関根

○医療法人 康麗会 越谷誠和病院

採用条件：正職員

連絡先：048-966-2711 総務課 高野

○まつもと糖尿病クリニック

採用条件：正職員 パート

連絡先：048-775-2222 事務 松本

給与、社会保険等、詳細につきましては掲載してある連絡先にてご確認をお願いいたします。

# あ と が き

今年もあと数週間、あっという間の1年でした。

先日、私共の病院で病院祭が行われました。そこで近隣の保育園児をお招きし、和太鼓を演奏していただきました。演奏は約20人で4歳児組と5歳児組の2組で行われました。

最初に4歳児組。小さな園児がお揃いのTシャツで、表情もあどけなくかわいい。4歳児じゃ・・・とっていたら、演奏が始まるとビックリ！様になっている！

次に5歳児組。衣装は半被にねじり鉢巻き、入場するときの目つきも4歳児組とは違う。見た目以上に違うのが演奏でした。太鼓からの音圧、ところどころに入る決めポーズ、また自信に満ちた顔で観客に視線を送り、見ているこっちが圧倒されました。1歳違いの5歳児組になると演奏だけでなく、見せるテクニックも数段上！、たった1歳の違いがこれほどの違いにと驚かされました。きっと彼らはこの1年は、一生懸命練習し充実した1年、さぞ長く感じた1年であったに違いないと思いました。

皆さん、今年1年、長かったですか？短かったですか？来年は今年以上に長く感じる充実した1年にしたいですね。

(猪浦 記)

